

『イギリスにおける労働者階級の状態』に学ぶ

第3回

関東ブロック

序説と工業プロレタリアート

イギリスの産業革命とは何か

司会…いよいよ本文に入っていきます。序説と工業プロレタリアートです。今回は埼玉県協の学習座談会で学んできました。それでは、レポートを担当した鈴木さんから、序説の内容についてポイントを押さえた説明をしたいと思います。ではお願いします。

鈴木…イギリスは産業革命以前、織工も農業をやりながら、都合が良い時に自分の家で妻と娘が糸を紡ぎ、夫が機を織っていたのです。そういうのをずっと守ってきた。牧歌的な農家の何百

年も続いてきた生活です。この生活が産業革命以降だんだん変わってきた。変わらざるを得なかったというところ

から、イギリスにおける労働者階級の始まりがあると思います。

牧歌的農業中心だった農村から少しずつ機械、紡績機、紡織機が使われたし、産業革命を経て、イギリスの中で労働者が増えてくる。農村は人口が減っていくことになり農業労働者になる人もいるし、農地を手放して工場働く人が出てくる。空いた土地を農業資本家というか、大農場を使って耕作する、大きな借地農というのがそれに代

わって増え、紡織機とか機械織りを行なえない人は大地主に雇われて、農業労働者にならざるを得ない。それが、い

ろんな機械が開発されてイギリスの、リチャード・アークライトが発明した鎖紡績機・梳綿機そめんきや、蒸気機関が発明され、家内工業でやっていた仕事、手仕事に代わって機械労働による大工場制工業へとかわり、産業革命の勝利が決定的になったのが重要だと思っ。同時に交通の整備、大きなハイウェイは1448キロもある高速道路や、運河も、物流の為に開発が進んだ。鉄道の建設は、1830年にリバプールか

◆みんなの学習講座



学習会で討論する埼玉県協の仲間たち

らマンチェスターまでの56キロを蒸気機関車が走り、陸上交通にも産業革命が行われたということが書いてあります。それと水上交通です。最初に蒸気船が航行したのは、アメリカのハドソン川でしたが、イギリスでは、1811年に蒸気船が航行した。これが

60年間のイングランドの産業の歴史です。

産業革命は何故、農業ではなく工業で起きたのか

司会…鈴木さんからの説明を聞いて、なぜイギリスが、資本主義の初めだったのかという疑問も、解明されました。農村は牧歌的生活を送っていたけれども、生産手段の発明による産業革命で生活が一変されたとありました。皆さんは農業経験がないと思いますが、実家が農家の方はいいますか。

土澤…私は農家の生まれです。自分も手伝っていたけど、農業だけでは食へていけなかった。畑作の他に、親父は山で木を切って馬車で製材工場に運んでいました。

勝田…父親の実家は、まあまあ大きい農家でした。親が育ったところは長兄が跡を取り、次男は桶屋に、末っ子の父

親は熊手職人にでらぼうずに丁稚奉公に出されました。家族みんなは食べていけなかったようです。

司会…農業だけでは食べていけない。そうすると農業が産業革命を促したのか？

清水…農民が何故労働者として都市に流れて行ったのか説明して欲しい。

小林…私も、自分の土地でずっとやっていけば食べていくくらいは出来たと思います。それまでは「ヨーマン」と呼ばれる多数の小土地所有者が多い。彼らは全く旧式で粗雑なやり方で土地を耕し幾代に渡って安定した生活を送って来た習慣の奴隷につきものもの頑固さで、どのような改革にも抵抗した」と言っただけですよ。それが何で食べていけなくなったのか、その辺がよく分からない。

勝田…人間生存の基本はやっぱり農業だと思っ。食えることがなかったら、生きていけない。でも、生産性から見

ていけば、農業より工業の方が発展すると思う。農産物はほとんど生産する事が出来ないでしょう。

鈴木：本には、「根本的な変化をもたらし最初の発明が1764年のジェニー紡績機であった。通常の手紡車の様に一つの紡錘ではなく、16から18の紡錘が付いており一人の労働者で運転された。機械による生産コストの低減で価格が安くなり需要が増え、織工は次第に畑仕事を離れ織物だけに専念するようになった。あまった土地をまとめて小作する大借地農という新しい階級は小さなヨーマンよりも、農作物を安く売ることが出来、小さなヨーマンは自分の土地では食べて行けなくなつた」と、書いてある。一つの紡錘が18にもなると、価格競争で圧倒的に有利だから、自分の土地だけでは、食べて行けなくなり、働きの口を求めて、都市へ流れて行ったと思います。だから工業の発展が農業に大きな影響を与

えたと思います。

革命が起きることを

予見して書かれた？

司会：鈴木さんが整理してくれました。農業が産業革命を促したのではなく、工業の発展が農業に影響を与えたのです。他に質問がありますか。

勝田：何故エンゲルスは、ドイツの資本家の息子という家業の跡継ぎだったのに、労働者の実態を知りたいと思つたのか？ 何故そうしたのか？ 普通の人だったら、汚い暮らしを見たいとは思わないのではないかしら、まして、お金持は。

高原：エンゲルスがイギリスを調査した理由として、「プロレタリアの状態が古典的な形で完全に存在しているのは、ただ、イギリスだけである。特に本来のイングランドだけである。それで、この21カ月の間に、イン格蘭

ドのプロレタリアートと、その努力、その苦しみと喜びを、個人的な観察や交際を通じて身近に知る機会を得るとともに、出典のしっかりした必要資料を用いることによつて私の見解を補う機会を得た」と序文で言っている。これは、社会主義理論です。社会主義革命をしっかりと目指しているのですよ。エンゲルスの凄いと云うところです。

勝田：人民の解放をするのは労働者階級なのだということが、分かつていたのですね。どうりで労働者の生活を知りたがったわけです。

高原：序説の最後に書いてあります。「フランス革命と同じように革命となつて爆発するにちがいない」というのは、プロレタリアは悲惨になるほど道義的責任を有産工業家階級がとらないことに恨みがつる。エンゲルスはブルジョアの息子だからわかるのです。恨みが革命となつて爆発するのです。ドイツは哲学、フランスは革命、イン

◆みんなの学習講座



19世紀イギリスの自由主義改革と政治運動 社会運動

グラウンドは産業革命、という情勢なのです。

司会…そのとおりです。エンゲルスは本に書いてあるように、「1760年産業革命前のイングランドと、1844年産業革命後とのへだたりは、第一

次フランス革命と18

30年の7

月革命のへ

だたりと類

似している

といつて、

「産業上の

最も重要な

産物こそ、

イングラン

ドのプロレ

タリアート」

だと歴史を

捉え「ほと

んど計算で

きる時間に革命となつて」とプロレタリアートに立ち上がれとエールを送ったのです。

岸…もしかしたら、マリー・アントワネットがギロチン台に乗るくらいだから、いずれは経営者もギロチン台に乗せられるかも知れないというのがあつたかも？

鈴木…それは無いでしょう。やはり労働者の力を信頼し、階級闘争を見据えたのです。

時代が変わっても

資本主義の本質は変わらない

鈴木…序説を読んで感じたのは、今の日本はエンゲルスが書いたイギリスの状態と現象的には違っているかもしれないけど、貧富の格差はどんどん広がっている。過労死、パワハラ、子どもへの虐待、自分で命を絶つてしまうなど、労働者の生活はあまり変わらないと思

います。しかし、今の日本の労働者は諦めてしまつてるように思います。

司会…鈴木さんが説明していた、現代の日本と変わらないということについて皆さんどう思いますか。

岡本…非正規で年収200万円以下の労働者が4割もいる。技能実習生として、更に低賃金で働かされている海外からの労働者がいる。歌舞伎町等の繁華街で、立ちんぼで、売春をやるしか生きられない女性が沢山いる。

土澤…正社員だって、会社は労働強化や、個人の責任でプレッシャーをかけているでしょう。働き続けられない。辞めたくなる。評価制度や、試験制度で、同僚は競争相手となる。差別やストレスも多い。いまの日本の労働者の状態とその当時と変わらないですよ。

司会…先程、産業革命によって家内工業から工場制工業へ、さらに大工場制工業へと発展し、ブルジョアが儲ける事で、労働者がどんどん増えてゆくと

討論してきましたけど、関連しますの
で、次の章『工業プロレタリアート』
に入っていきます。

レポーターは、土澤さんです。ポイン
トを、明確にしたレポートが用意さ
れておりますので、発表をお願いしま
す。

工業は労働者に

作用と反作用をもたらす

土澤：工業から労働者が増えた。ポイン
トは8つです。

①最初のプロレタリアートは、工業
に属し、工業によって直接生み出され
た。②原料や燃料そのものの製造は、
工業の飛躍的な発展をもたらし、新し
いプロレタリアート、つまり炭坑や鉱
山の労働者を生み出した。③三番目
は農場へ、四番目にはアイルランドへ
と、工業は反作用を及ぼした。④労働
者の教育水準は彼らの工業と結びつき

ほぼ正比例している、従って自分自身
の利益を悟っている労働者は工業労働
者に最も多く、農業労働者となると、
ほとんどいなくなる。⑤我々はこのよ
うにしてイングランドの例からすなわ
ち、労働者運動が工業の動きと同一歩
調を取っていることから、工業の歴史
的意義を学び取ることができる。⑥工
業は大資本を必要とする。⑦人口も資
本と同様に集中する。それゆえ驚くべ
き速度で大工業が増加する。⑧商業に
おいても、人口の集中化は工業の場合
とまったく同様に作用する。

司会：8つのポイントを明確に説明し
てくれました。質問がありますか。

勝田：「原料や燃料そのものの製造は、
工業の飛躍的な発展をもたらし、新し
いプロレタリアート、つまり炭坑や鉱
山の労働者を生み出した。三番目には
農場へ、四番目にはアイルランドへと、
工業は反作用を及ぼした。」というの
は、どういうことを言っているのか教

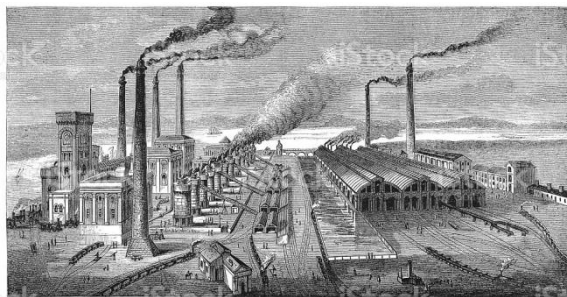
えてください。

高原：だからプロレタリアートを生み
出した。工業の発展は、炭鉱や鉱山の
労働者を生み出したでしょ。しかし、
三番目には農業は廃止される。農業を
やめて労働者になるしかない。これが
反作用だよ。四番目のアイルランドへ
とは、アイルランド人も農業をやって
いたけど都市にきて、プロレタリアに
なるしかなかった。だから、工業は反
作用を及ぼした事になる。

小林：⑤の我々はこのようにしてイン
グランドの例からすなわち、労働者運
動が工業の動きと同一歩調を取ってい
ることから、ということとは、労働運動
も発展したということですよ。

高原：イギリスの炭鉱労働者はいち早
く目覚めて労働組合を作った。だから
炭労は強い。サッチャーは新自由主義
で炭労へ軍隊を入れてつぶした。イギ
リスの炭労はストライキをやって、労
働時間の短縮や、最低賃金の確立を闘

◆みんなの学習講座



イギリスのカンブリアにあるパローヘマタイト製鋼所
19世紀のイラスト

っていた。

宮澤：⑥の工業は大資本を必要とするとは、具体的にどういうことですか？
土澤：資本家どうしの競争ですよ。大資本で巨大な設備を建設して、それによって手工業を行うブルジョアジーを破滅させる。更に大資本で工業は自然

力を駆使し、個々の手工業労働者を市場から駆逐する。数多くの小中産階級が大工業によって粉砕されるのです。

景気の変動も、資本主義の初期の段階からあったので、資本も淘汰されていたと思います。一方の裕福な資本家と他方の労働者とに解体され大資本家による搾取が強まるということですよ。
岡本：⑦人口も資本と同様に集中する。

それゆえ驚くべき速度で大工業が増加する。⑧商業においても、人口の集中は工業の場合とまったく同様に作用する。とはなんですか？

土澤：本にも例として上げているように、リバプールやロンドン等大きな港が、イギリスの海上貿易を独占しているのです。これらの大都市では、工業と商業が最も完全な発展を遂げるのでプロレタリアートに対するその影響もあからさまに表れるということです。

更には、「昔の陽気なイングランド」という言葉が祖父母の話には出てこな

い。小ブルジョアジーが日々姿を消しているからである。以前には最も安定していた小ブルジョア階級が、今や最も不安定な階級となっている。彼らのうち一人が豊になれば99人は破産するのであり、この99人のうち半数以上は破産を繰り返している。これら大都市の圧倒的多数はプロレタリアートになった」ということですね。

司会：産業革命とは何か、プロレタリアートはどの様に発生したのか、工業の発展とともにプロレタリアートも発展強化されることを「序説」と「工業プロレタリアート」で学びました。

次回7月号は、「大都市」です。19世紀全般の都市労働者の悲惨な消費生活状態を分析していきます。資本家があらゆるものを独占し、労働者階級が密集している「貧民街」の状況をエンゲルスが21カ月間かけて歩いたレポートを学びます。